



新社会人パワーアップセミナー

4月9・10日、中央ふれあい館で行われ、市内事業所に就職した新社会人76人が、あいさつの仕方や電話の対応など、基本的なビジネスマナーを学びました。



江戸袋の獅子舞

(市指定無形民俗文化財)

川口市江戸・江戸袋地区に江戸時代初期から伝承されている一人立ちの三頭獅子舞です。

4月14日、春の舞(村祈禱)が行われ、江戸袋氷川神社の境内を一周してから氏子の家々を悪魔払いして回り、途中の年番待合所では「三人神楽」を舞いました。



KAWAGUCHI PUBLICITY



第75回春の安行花植木まつり

4月13・14日、川口緑化センターほか4会場で開催。市内緑化団体による植木や鉢物の展示販売のほか、花植木オークション、生け花展などが行われ、緑に親しむ多くの来場者でにぎわいました。





川口市名誉市民永瀬洋治氏の胸像が建立されました

昭和56年から四期16年にわたり川口市政を牽引し平成24年2月に逝去された川口市名誉市民永瀬洋治氏。遺徳功績を末永く後世に伝えようと組織された顕彰会のみなさんにより、現存する永瀬氏の胸像の台座が、3月24日、永瀬氏ゆかりのリリア2階アトリウムに建立され胸像とともに除幕されました。



春の企画展<反芻 はんすう しのはらう し お 篠原有司男>

4月13日からアートギャラリー・アトリアで開催。多様な現代アートの第一線で活躍する篠原氏の80点を超える作品を展示。

4月14日には篠原氏と日本美術史家山下氏との公開対談も行いました。5月26日(日)まで開催しています。

COMMUNITY

マイシティ
かわぐち

MYCITY

ひと・歴史・かわぐち Vol. 5

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます

「南平」の名称は、彼の名に由来します。彼が領した平柳領は、明治22年(1889)、北平柳村と南平柳村に分かれます。北平柳村は明治34年に当時の鳩ヶ谷町に編入され、その名を今にとどめていませんが、南平柳村は、昭和8年、川口町、横曽根村、青木村と合併して川口市となり、「南平地区」として、かつての領主の名を今に伝えているのです。



正覚寺

当寺開基の蔵人が奉安した阿彌陀三尊像を拝見できる。武州川口七福神の「布袋尊」も。元郷3-1-14



実相寺

蔵人の過去帳があった名刹。徳川第3代将軍家光の急病を祈禱で平癒させたと伝記も。毎年11月第3日曜日の「万灯行列」は除夜の鐘とともに風物詩。領家2-14-11



平柳蔵人居館跡

元郷4-12-6
南平公民館元郷分館敷地内

「南平」にその名をとどめる
平柳 蔵人

今回は、室町時代後期、現在の市南東部を領した平柳蔵人をご紹介します。

「川口市は往古武藏の國岩槻の太田氏の家人平柳蔵人なるもの、領地にして市内大字元郷に居住し此の附近十五ヶ村は同氏の所領なりしと言ふ」。昭和8年、市制施行当時に発行された『川口市勢要覽』は、市の沿革にこう記しています。

十五ヶ村とは、元郷村、川口村、飯塚村、辻村など、現在の南平地区から中央・横曽根・鳩ヶ谷地区の一部に及ぶエリア。平柳蔵人は、岩槻城主太田氏の家臣で、時まさに群雄割拠の戦国時代へと突入していった室町時代後期に、この広大なエリアを領した人物です。

「南平」の名称は、彼の名に由来します。彼が領した平柳領は、明治22年(1889)、北平柳村と南平柳村に分かれます。北平柳村は明治34年に当時の鳩ヶ谷町に編入され、その名を今にとどめていませんが、南平柳村は、昭和8年、川口町、横曽根村、青木村と合併して川口市となり、「南平地区」として、かつての領主の名を今に伝えているのです。

南平公民館元郷分館にたたずむ「平柳蔵人居館跡」、位牌を伝える蔵人ゆかりの正覚寺など、

発展を続ける南平地区に、蔵人の生きた証はいまもひっそりと息づいています。

参考文献・「川口の文化財」1991、川口市教育委員会 『川口市史通史 編上』1988、川口市